



南市岡小学校



南市岡小学校は、昭和5(1930)年に南市岡尋常高等小学校として、今の市岡小学校から分かれて誕生しました。昭和20(1945)年3月の空襲で校舎のほとんどが焼けたため、一時、市岡小学校と統合されました。南市岡小学校として復興したのは昭和33(1958)年です。

今回は、南市岡小学校を昭和55(1980)年に卒業された坂元博志さん(現PTA会長)にお話をうかがいました。2人のお子さんも今、同じ小学校に通学されています。



坂元博志さん

3年生まであった木造校舎の思い出は、年に1度の床の油引きです。床にモップで油引きをした後は上靴が真っ黒になりました。木造校舎の後には講堂が建ち、屋上にプールができました。見晴らしのよいプールで、友達の家などをよくさがしたものです。ある時、プールの中で渦をつくることになりました。1学年80人ほどで歩いて同じ方向に回っていると、渦ができて楽に水の中を歩けるようになりとても楽しかったです。



木造校舎(南市岡小学校提供)

クラブ活動では、できたばかりの鼓笛隊に入り、運動会の入場行進で演奏しました。練習が中学校並みに厳しくて、時間が遅くなったときは先生からパンや牛乳をいただいたのを覚えています。修学旅行は伊勢に行きました。今も伊勢志摩方面なので、こどもの授業参観のときに見た旅行の様子の中に、自分た

ちが泊まった旅館が出てきたのを見て感慨深かったです。

また、南市岡では地域と学校とのつながりが強く、12月にある「ふれあいまつり」は今年で8回目になります。西日本一瓦問屋が集中している地域なので、並べた瓦と藁の間に芋を入れて焼き、「瓦焼きいも」をつくるのが恒例になっています。楽しいだけでなく地元学習にもなり、一石二鳥です。



運動会での鼓笛隊の演奏
卒業アルバム「おもいで1980」より